

えのきどだより

003号

令和5年9月

編集/発行 榎戸区（広報部会）



4年ぶりに榎戸春祭りを開催しました

3年間続いたコロナ禍も、神明社で行われた元旦祭、祈念祭での皆様の祈願が神様に届いたのか、令和5年になると、新型コロナウイルス感染症の感染対策が見直され、行動制限等の緩和、大型施設への入場制限や大規模イベントの開催制限も無くなり、各地で春祭りの開催に向け機運が盛り上がりました。

榎戸区においても、4年ぶりに春祭りを行うため、祭礼実行委員会を組織し、開催に向け準備を進めました。しかし、3年間もの春祭りの中止で、私を始め区の役員は、春祭りの運営に携わった経験が無いため、実行委員の皆様のご記憶を頼りに手探りで準備となりました。

以前の春祭りに比べ、不十分な点は多々在ったかと思いますが、協議員や区関係団体の皆様のご協力を得て、なんとか実施することができました。

伝統行事の春祭りを次に繋ぐためには、本年度実施できたことは、大変意義深いことと思います。

榎戸区長 伊藤憲二

榎戸の春祭りで行われる飾り馬の奉納神事は、経石塔と密接な関わりがあるとされておりますが、いつ頃からどの様にして始まったのか、歴史資料から推察してみよう。

榎戸の新田開発

万治元年（1658年）の江戸初期に、田地の農作物を育てるために榎戸海岸の鬼ヶ崎に新田（現在の新田町）が開発されました。そこは西風が強く広い砂浜からの砂土が多く田が埋まるために、松苗を植え防風林としました。現在の蒲池漁港から榎戸漁港一帯にわたって植えられました。

鬼ヶ崎海岸の新田では、暴風雨の高潮高波により護岸の堤防が幾度と決壊して村民を困らせていました。村人総出で堤防を守ろうとしましたが、満潮時の海水に襲われ幾人もの命を落としました。村人たちは二度と決壊しないように、堤防の復旧工事をしましたが止まりませんでした。

堤防を守った経石塔とお祭り

安永5年（1776年）、犠牲になった人たちの菩提を弔い、また二度と堤防が切れないことを祈って、龍雲寺住職に頼み、大乘妙典の経文を一石に一字ずつ心願こめて書き、新しい堤防に埋めしました。その上に「奉書写法華経塔」の文字を刻んだ経石塔を榎戸漁港の北付近に建てました。それ以来堤防はめったなことで決壊しなくなりました。

安政6年（1859年）にもう一つの経石塔である「大乘妙典一字一石塔」を石橋家の北西・海岸堤防越え砂浜付近に建立しました。

経石塔建立に伴って、村民の安全と五穀豊穡を祈り、神明社から出た神馬三頭が海岸の松並木の間を駆け抜ける「新田祭り」（春祭り）が行われるようになったのです。

祭りは安永5年から始まったものと思われませんが、正確な資料は見当たりません。

経石塔の移築

経石塔は、昭和28年4月に榎戸漁港の大規模改修に伴い、榎戸漁港の北にあった経石塔を墓地南端辺り（旧森上29番地）に移築しました。

さらに同年9月に13号台風で被害を受けたため、10月に経石塔二基合わせて、現在の墓地南（旧トヤノワダ）に移転奉建したのです。

移築の詳細は、経石塔とともに「経石塔移築記」として龍雲寺悦心和尚により記され、石碑が建立されております。



経石塔と副碑/経石塔移築記

参考文献

- (1) 吉田哲夫「鬼ヶ崎新田山の由緒と歴史」2016年4月
 - (2) 江端祥一「大野谷風土記」1999年7月
- 注）経石塔 …… 昭和46年市指定有形民俗文化財

榎戸の春祭り

榎戸の春祭りは江戸時代に経石塔建立とともに、始まったものと推察されます。

祭りは「飾り馬奉納神事」であり、豪華な馬具で飾った馬を神社に奉納するいわゆる「おまんじ祭り」（馬の塔、御馬塔などと書く）と言われています。発祥は熱田神宮への献馬であり、これが知多市の日長神社に伝わり、榎戸へと伝わったのではないかと思われまます。

昭和20年頃の榎戸の春祭りでは、飾り馬3頭に御幣や飾り花を標具鞍（だしくら）に乗せたもので、「ぼんねん馬（御幣馬）」「さくら馬（桜色の造り花）」「やなぎ馬（柳の花）」からなります。この飾り馬三頭とお囃子が行列を組み、榎戸区内を神楽演奏しながら練り歩きます。当時は「若連中」（若衆の組織）が運営しており、経石塔前の榎戸海岸や龍雲寺通りを駆け馬して、奉納神事しておりました。恐らく江戸時代から、これと似た形態のお祭りであったものと推察されます。

飾り馬奉納神事は昭和34年（1959年）の伊勢湾台風で榎戸も甚大な被害を受けたため、翌年から中止となりました。そして、30年後の平成2年（1990年）に榎戸の春祭りである飾り馬とお囃子の行列は復活して現在に至っています。

（コラム①②執筆 広報部会 齋田富兼）



昭和30年代の榎戸海岸駆け馬



現在の飾り馬行列

榎戸神明社の歴史と神事そして氏子総代の役割

歴史

榎戸神明社の建築記録は正保3年（1646年）と記載があり。大正9年（1920年）には本殿造営。昭和32年（1957年）には本殿両側の津島社、八幡社を移設し本境内地に合祀。以降、現在に至る。

神事

榎戸の季節を彩る神事（元旦祭、祈年祭、どんど焼き、春の大祭、大祓式、田植奉告祭、津島社祭、八幡社祭、七五三祈禱、秋の大祭、大祓い式）が行われ、榎戸の住民の心のよりどころ、祈りの象徴として、また、数々の祭りの舞台として大切な役割を果たしてきました。

氏子総代の役割

大切な神事の舞台である神明社の護りは、古くから榎戸の住民に受け継がれてきました。その氏子総代の役割は、宮司（神職）を補佐し、神事の準備・運営、境内の清掃管理などです。

榎戸の歴史の継承者として興味のある方（年齢不問）がおられましたらご参加のほどよろしくお願ひいたします。見学も歓迎します。

【お問い合わせ】

榎戸神明社、又は榎戸区長まで!!

（執筆 広報部会 吉田 英基）

令和5年度 前半の行事

7月9日	7月8日	6月18日	6月10日	5月21日	5月14日	5月3日	4月1日・2日	3月1日	1月1日・3日
提灯まつり	「花いっぱいまちづくり事業」 榎戸駅前花植え作業	海岸清掃	鬼崎中学校草刈り	防災施設点検	一斉清掃	市民交流センター草刈り	春の祭礼	青色パトロール講習会	元旦祭、祈年祭



榎戸駅前花植え作業



海岸清掃



青色パトロール

榎戸区の活動は公式SNSでご紹介しています



ENOKIDOKU

フェイスブック

<https://www.facebook.com/enokidoku2022>

インスタグラム

<https://www.instagram.com/enokidoku/>



榎戸区ホームページ <http://www.tac-net.ne.jp/~enokido-ku/>

スマホの使い方相談をお受けしています。榎戸のボランティアスタッフが担当なので無料です！

日時：毎月 第2・第3・第4水曜日 13時～15時 場所：榎戸コミュニティセンター